

第 4 回
日 本 腰 痛 研 究 会

平成 8 年 12 月 14 日 (土)
自治医科大学研修センター
大講堂

〒329-04 栃木県河内郡南河内町薬師寺3311-1
TEL 0285-44-2111 内線3611(会場)
3537(教室)
FAX 0285-44-1301 (教室)

会長 大井 淑雄

第4回日本腰痛研究会開催のご挨拶

会長 大井 淑雄

日本腰痛研究会もようやく幼稚園児に成長しました。本研究会は整形外科医を中心に発足してはいますが広く門戸をあらゆる職種に開いて居ります。

腰痛という誰もが日常珍しくない体験を持つ症状をいろいろな角度から検討してみようという考えのもとに出発したものであります。

整形外科医の一人として私個人も昭和36年から故森崎直木先生に指導していただいて腰痛疾患を視て参りました。

決して手術的療法とか保存的療法とかにこだわるのではなく、要は腰痛を持つ患者さんの訴えを聞き、その苦痛を軽減消失させようとするのが目的なのです。

自分自身が腰痛患者になったときにどのような治療法を選択するか、どのようにして腰痛と付き合っていくかを考えるのが基本です。これは他の疾患の治療法とまったく同じであります。本研究会はもっと以前から存在すべきであったと思われ、その点では衛生学会や公衆衛生学会に遅れをとっております。

私共整形外科医の他にもこのような同好の士が多く居ることを認識すべきでありましたし、また医師に限らず勉強努力している関連職種の方々と連携すべきでありました。ISSLS（国際腰痛研究学会）のような形がよいでしょう。そして腰痛によって職場を休み、社会的にも多大の損失を与える人々がいかに多いかを考えることから、職業性腰痛についてもしっかりした方針を持つ必要があります。この点については我々が力強く感じるのは労働省などが大いに関心を持ち援助をしてくれたことであります。あらためて名誉会長の近藤鉄雄先生はじめ関連各位の方々に深謝するものであります。

学会場としてやや不便かと存じましたが、自治医大の研修センターを選ばせていただきました。長らく私の勤務していたところでもあります、都市とはまた違った趣もあります。

皆様どうか一日を有意義にお過ごしいただきたいと存じます。なお星野雄一教授をはじめ自治医大整形外科学教室の諸君の多大の協力に対して感謝いたします。

1996年12月